

使用評価マニュアル: CASBEE-環境省 2016年度、全日本建築環境総合調査委員会マニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE Nagoya 2016(v3.0)

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
<p>住宅性能評価で断熱等性能4等級、一次エネルギー消費量4等級を取得する計画とし、省エネルギーに配慮している。 屋上緑化の設置など、良好な緑地環境に配慮している。</p>		
<p>Q1 室内環境 外皮性能は住宅性能評価で断熱等性能4等級とし、省エネルギーで快適な室内環境を整えられるよう努めた。 F☆☆☆☆の内装建材を採用し、室内空気環境に配慮している。</p>	<p>Q2 サービス性能 躯体は住宅性能評価で劣化対策等級3相当とし、設備は耐用年数の長い配管材を採用し建物の長寿命化に配慮している。</p>	<p>Q3 室外環境（敷地内） 敷地内には適切に緑化を施すことで地表温度上昇を極力抑える計画とした。</p>
<p>LR1 エネルギー 適切な断熱材を施し外皮の熱負荷抑制に努めた。 潜熱回収型給湯器、LED照明設備を採用することで省エネルギーに配慮している。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 有害物質を含まない材料を使用するよう努めた。</p>	<p>LR3 敷地外環境 ライフサイクルCO2排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。</p>

 $\frac{1}{2}$

重点項目スコア・結果シート

リジエ南山

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				4.2
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.2	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	4.0	0.05	
2. 自然共生				3.2
Q3.1	生物環境の保全と創出	3.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	4.0	0.045	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.0	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.2	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 4.2



2. 自然共生

評価点 = 3.2



3. 循環型社会

評価点 = 3.1



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。